



愛知県立美和高等学校

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

2024年度（令和6年度）実施報告書

We're



美和



地域と自分の美しさを知り 人と人の和の力で 未来を拓く生徒を育む

みわこう マ イ シン ド
美和高 Makes Innovators with Neighbors Dramatically

～地域とともに 未来を革新する人材を育てる～

本校は、愛知県西部のあま市に位置しており、地域との連携を深めて、地域を支える人材の育成と人間力の形成に力を注いでいます。今年度、いよいよ「地域探究科」の開設に向けた準備が整い、これまでの取り組みを基盤に、さらに進化した学びを実現するための新たな一歩を踏み出しました。文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業」(普通科改革支援事業)に採択されたことを契機に、探究的な学びを重視した教育改革を推進し、時代に即した教育を実現していきます。

探究的な学びとは、単なる知識の習得にとどまらず、生徒が自ら問いを立て、調査や実験を通じて知識を深め、創造的な解決策を生み出す力を養う学びです。この学びの核心は、生徒が自分の興味や関心に基づいて積極的に探究し、その過程で得た情報を批判的に評価し、問題解決に活かす能力を身につけることにあります。現代社会では、情報が溢れる中で、有益な情報を見極める力、そしてそれを実際に活用する力がますます重要になってきています。地域探究科では、地域資源を学びのテーマにし、実践的な課題に取り組みながら、このようなスキルを育むことを目指します。

「地域探究科」の開設準備を進める中で、私たちは教育の本質について改めて考えさせられました。現在の愛知県田原市にあった田原藩の家老・渡辺華山が描いた『一掃百態図(寺子屋図)』は、一見すると授業崩壊に見えるかもしれませんが、江戸時代の寺子屋では、子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組ませていたそうです。教師は、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を担っています。まさに「令和の日本型教育」が求める個別最適な学びを実践しているのです。令和の日本型教育は、生徒の可能性を引き出すことや、協働的な学びの実現を目指しています。こうした教育は、まさに本校が進めている探究的な学びと合致し、生徒が社会で活躍できる力を養うものです。

本校の地域探究科では、地域の課題に積極的に取り組みながら、生徒が自らの興味を追求し、学びを深める環境を提供します。地域資源の発掘や地域社会との協働を通じて、問題解決力やリーダーシップ、創造性を育成し、未来を担う力を養っていきます。今年度は、連携大学も増やし、また、令和8年度からスタートする連携型中高一貫校として地元の6中学校との連携も始まりました。異年齢との交流や協働は、学びを深化させるとともに、思いやりや対話力も育むはずで

す。

この新たな挑戦を進めるにあたり、地域の皆様や関係機関のご支援をいただけることに感謝し、今後とも、共に学び合い、地域社会に貢献できる人材を育成していく所存です。

引き続き、ご協力を賜りますようお願い致します。



渡辺華山筆『一掃百態図』部分「寺子屋図」(田原市博物館所蔵)

新時代に対応した高等学校改革推進事業 実施報告書 目次

巻頭言

第1章 学校の概要と本事業に係る本年度の計画

1 本校の概要

- 1-1 所在地
- 1-2 設定課程および在籍生徒数
- 1-3 学校経営方針

2 地域探究科

- 2-1 設置の目的
- 2-2 地域探究科の特色・魅力
- 2-3 地域探究科での先進的な教育取組
- 2-4 地域探究科 事業構想(ビジュアル資料)
- 2-5 前年度(令和5年度)成果概要図

3 事業の実施計画の概要及び本年度の計画

- 3-1 3ヶ年の実施計画の概要
- 3-2 本年度(令和6年度)の計画の内容
- 3-3 令和6年度年間予定

第2章 実施計画に基づく事業実施報告

1 カリキュラム研究開発

- 1-1 新学科設置校視察
- 1-2 カリキュラム開発のための会議
- 1-3 新学科カリキュラム
- 1-4 ルーブリック及び評価方法

2 「総合的な探究の時間」の深化

- 2-1 本年度(令和6年度)の「総合的な探究の時間」の年間指導計画
- 2-2 1年生での「総合的な探究の時間」の取組
- 2-3 2年生での「総合的な探究の時間」の取組
- 2-4 新学科の「総合的な探究の時間」及び「学校設定教科」の年間指導計画作成

3 地域と連携したフィールドワーク等の先行実施、及び「総合的な探究の時間」外の本校の取組

3-1 地域と連携したフィールドワーク

3-2 授業及び部活動での取組

4 大学との連携

4-1 星城大学訪問

4-2 名古屋文理大学訪問

4-3 愛知県立大学訪問

4-4 名古屋工業大学訪問

4-5 岐阜大学訪問

4-6 愛知大学訪問

4-7 大学との高大接続連携

第3章 管理機関の取組

1 管理機関の取組

1-1 管理機関の役割と実施計画

1-2 管理機関による活動実績

第4章 本年度の成果と次年度に向けて

成果概要図

巻末 参考資料

第1章 学校の概要と本事業に係る本年度の計画

1 本校の概要

1-1 所在地

〒490-1295 愛知県あま市篠田五ツ藤1番地

1-2 設定課程および在籍生徒数(令和6年度4月1日現在)

生徒数	1年	2年	3年	計
普通科	199	196	180	575
計	199	196	180	575
学級数	1年	2年	3年	計
普通科	5	5	5	15
計	5	5	5	15

1-3 学校経営方針

校訓：「和」

スクールミッション(教育方針)

- 自ら探究的に学び、物事に積極的に挑戦し、成し遂げることのできる、たくましい生徒の育成を目指す学校
- 自らを律し、他者を思いやる心を持ち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校

スクールポリシー

1 目指す生徒像(育成を目指す資質・能力に関する方針)

- 他者を思いやる優しさを持ち、地域と自分の未来を拓いていくたくましい力を育成する(対話力・思いやりの育成)
- 個性を伸ばし、自己有用感を高めつつ、学校生活における様々な活動にチャレンジ精神を持って取り組む力を育成する。(実践力・豊かな人間性の育成)
- ICT 機器の活用やグループワークなど、主体的な学びに意欲的に取り組み、活用できる力を育成する。(課題発見力・情報活用力・問題解決力の育成)

2 本校における学び(教育課程の編成及び実施に関する方針)

- 個の学力に合わせた授業展開と教科横断的な学びの実践
- 生徒の主体性を伸ばし、可能性を広げる探究活動を取り入れたカリキュラムの実践
- 地域の課題解決に向けて地域の人とともに行う地域活動の実践
- グループワークなどで協働して研究を行ったり、議論したりする授業の実践

3 入学を期待する生徒像(入学者の受け入れに関する方針)

- 他者を思いやり、他者と協働して様々な教育活動に取り組む生徒
- 地域活動に積極的に参加し、地域に貢献していきたい生徒
- 進学を目指し、自己の可能性に挑戦して、主体的に学習に取り組む生徒

重点目標 (スクール・ミッション、スクール・ポリシーの実現)

「豊かな人間性と生きる力を身につける」

「地域に根差した魅力的な高校をめざす」

「行きたい学校・入学して良かったと思える学校をつくる」

合言葉 「チャレンジ!」

地域探究科で育てる生徒像

自ら学び 深く考え 物事に積極的に挑戦し 意欲的で「たくましい生徒」

地域探究科で学んだことを活かして、進学先でも生き生きと活躍できる生徒を育成し、潜在能力を開花させたい。

2 地域探究科

2-1 設置の目的(以下は事業実施計画に基づく)

本校を取り巻く状況

愛知県では、本県の教育振興基本計画として、令和3年2月に令和7年度までを計画期間とする「あいちの教育ビジョン 2025ー第四次愛知県教育振興基本計画ー」を策定した。「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことなど、7つの基本的な取組の方向を定めた。

こうした中、本校は、令和3年度に県内に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索してきた。本校が所在する愛知県あま市は、旧海部郡甚目寺町・美和町・七宝町が合併した市政 14 年となる若い市であり、名古屋市のベッドタウンとして近年発展を見せ、人口増加を続けている。あま市役所等の公共機関には本校の卒業生も多く、今後の市の発展を担う旧美和町唯一の県立高校として、地元からの本校や本校生徒への期待は大きい。

本校生徒は、あま市からの通学者が約 30%、大治町・津島市・稲沢市等の隣接する地域からの通学者が約 60%であり、まさにこの地域の未来を担う若者たちである。

地域探究科（地域社会学科）を設置する必要性

令和4年 11 月、愛知県教育委員会は、本校を地域の教育ニーズ対応型中高一貫教育の1校に決定し、公表した。あま市・大治町等近隣市町村と本校による連携型中高一貫教育を令和8年4月に開始し、地域の様々な活動を通じて、生徒が地域の人たちと共に育ち、楽しみながら社会貢献をすることができる、かけがえのない高校を目指すこととしている。中高一貫教育の導入に向け、「県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会」を親会議とし、「中高一貫教育具体化検討部会」や実務者レベルのワーキンググループにより、中高一貫教育と地域探究科の具体的な在り方を検討する。

現在、本校と連携しているあま市の公共機関や団体に属する地域住民は、若者と地域を結ぶ教育に対して問題意識が高く、高校生への講話や講座にも積極的に参加している。このような地域住民との交流は、地域の課題を自ら考え、周囲の協力を得ながら問題を解決していく、生きる力を持ったロールモデルを直に見る場であり、自ら動いて地域社会をよりよくしようとする姿勢を学ぶ最良の機会でもある。生徒自らの人生の課題を把握し、適応する力を身につける上でも非常に重要であると考ええる。

本校生徒の一部は既に、公共機関等が主催する地域興隆イベント等の運営ボランティアとして地域貢献を果たしているが、学業や部活動を抱える生徒にとって、地域貢献の時間を捻出することが困難なこともあった。今回、地域探究科を設置するにあたり、通常の教科よりも柔軟かつ多様に地域と連携できる学校設定教科を教育課程に取り入れることで、学校と地域の持続可能な連携の仕組みを作り上げることが可能になる。地域と学校が継続して協働するためには、コーディネーター等の人的資源の確保とともに、学校設定教科の開設と地域探究科の設置など、学校全体での取組が必要不可欠である。

あま市も本校も、全国的に見て著名な自治体・学校ではない。生徒の学力も全国的な平均値とほぼ一致する。しかしながら、このような中核的な地域で生活を送る生徒が自らを正しく肯定することで安定し、さらに自立した自己と協働する力によって活性化して勢いづくことは、日本全体の活性化に繋がるものであると考える。生きる力を身につけた生徒を主体に、地域と学校とが結びついて年齢を超えた人の和をつくり、常に革新を続ける地域の先例となることが、本校の地域探究科設置の目標の一つである。

2-2 地域探究科の特色・魅力

当該学科における特色・魅力

本校は令和3年度に設立した地域連携センター「美和高マインド」を核とし、地域密着型の学校として、地域と深く交流してきた。当該学科においては、あま市役所・社会福祉協議会・商工会・NPO 法人等の各機関や地元の小中学校・公立保育園等と連携し、「学生を軸とした地域活性化とは何か」を学校と地域で考え、生徒を主体とした地域興隆イベントの実践や地域住民向け講座等を実施していく。また、連携大学と協働したフィールドワークやオンライン講座を通じ、活動に必要な知識も身につける。これらの活動と地域や大学との協働を通じて、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用能力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。当該学科で学んだ生徒が自らの出身地域へその学びを還元することで、あま市のみではなく、その他の地域へと地域興隆の波を広げていく。

特色・魅力ある先進的な教育の取組

それぞれの学年を「美を知る1年生」「和をつくる2年生」「未来を拓く3年生」とし、1年次は地域の魅力を探求、2年次は連携機関や大学との協働、3年次は1・2年次の学びをもとに、知識や技術を地域社会に還元していくことをテーマとした教育に取り組む。カリキュラムとしては、各年次に「総合的な探究の時間」4単位と「学校設定教科」を2単位ずつ、合計 18 単位履修する。また、それらを支えるための教科等横断的な学びにも力を入れる。

(1) 「総合的な探究の時間」

総合的な探究の時間は、グループワークを通じての探究を主とし、環境や産業などの地域資源の発掘、連携大学と協働して地域を学ぶフィールドワークを実施する。その際、周辺地域のみでなく、この地域出身の戦国武将等にゆかりのある他県・他地域の魅力にも目を向けさせたり、この地域に多く在住する外国人の出身国についても探究させたりと、広い視野を持って地域から学ぶことを目標とする。また、地域興隆イベントや小中学生に向けた出前講座の企画等のグループワークも本時間に実施し、課題発見力の養成を目標とする。

(2) 「学校設定教科」

学校設定教科は、地域の伝統工芸品である七宝焼の一般向け講座運営や広報活動、地域興隆イベントや地元住民向けの実習講座など、実際に地域で活動することを主とする。地域住民との交流を通じて、異年齢とふれ合うことから、思いやりの心や対話力・問題解決力を育むことを目標とする。

(3) 「教科等横断的な学び」

総合的な探究の時間や学校設定教科におけるグループワークや地域活動を支える教科を超えた学びを実践する。広報活動に必要な情報活用能力や、外国人とコミュニケーションを図るための語学等、実践を想定して指導する。また、環境美化活動を通じて地域の生態系への学びを促進したり、地域活性化の活動に伴い地域の歴史的遺産や関連する人物への知見を深めたりするなど、体験を通じた幅広い学びを提供する。

以上の(1)～(3)を通じ、生徒の物事を肯定する力と地域社会の役に立てた経験からなる自己有用感を育て、不安定な時代を生き抜く力である課題発見力・情報活用能力・問題解決力・実践力・対話力を育み、思いやりと豊かな人間性を備えた地域の未来の担い手を育成する。

2-3 地域探究科での先進的な教育取組

地域探究科における取組の目的・目標

「あいちの教育ビジョン 2025ー第四次愛知県教育振興基本計画ー」では、基本的な取組の方向の一つである「ふるさとの魅力やあいちの伝統・文化に学びつつ、技術の進歩に取り組み、社会の発展を支える人材を育む」ことについて、「ふるさとに学び、ふるさとを愛する心を育むとともに、生きていく上での羅針盤となる教育を充実させ、社会の激しい変化の中でも自分をしっかりとって、あいちを担っていく進取の精神を育てる」と示している。

こうしたあいちの教育ビジョンを受け、地域探究科での学びを通じて、地域社会の一員としての役割を生徒に認識させ、地域社会との協働を図る。地域社会との協働の中で、生徒が郷土の魅力と自らの価値を認め、自己肯定感と思いやりの心を育み、それらに裏打ちされた生きる力をもつことで、地域の未来をつくる人材を育てる教育を実践することを地域探究科の目的とする。

同時に、生徒の若い力もまた地域の資源であり、学校と地域との連携の下に、若者の視点を取り入れた独自の地域活性化の取組を提案・実行し、高校生主体の地域興隆を図ることを地域探究科の目標とする。

地域探究科における教育を通じて育成を目指す資質・能力

社会の激しい変化の中でも自分をしっかりとって、自らの力で困難を乗り越え、未来を拓くため、以下の7つの資質・能力の育成を目指す。

(1) 課題発見力

総合的な探究の時間のグループ活動や連携大学との地域探究のフィールドワークを通じて、地域の魅力とともに、地域興隆における課題を発見する力を養う。社会状況の中に課題を見つけ、自らの課題として捉えることの大切さにも目を向けさせる。

(2) 情報活用力

総合的な探究の時間や学校設定教科における探究活動や調査、地域活動を行う上での情報発信などを通じて、情報活用力を育成する。

(3) 問題解決力

地域興隆イベントや出前講座・実習講座を通じて、実際にイベントの企画や運営に携わることで、発見した課題に対する問題解決力を養成する。

(4) 実践力

3年間の学びから、自らの課題に対して解決策を考え、自ら実践し、地域に貢献していく力を養う。

(5) 対話力

グループワークや連携機関・大学とのフィールドワークなど、クラスメートや地域住民との交流を通じて、様々な考えを持つ他者と対話する力を身につける。

(6) 思いやり

実際に地域住民との交流や異年齢との交流を通じて、多様な他者への理解を深めることで、思いやりの心を育む。

(7) 豊かな人間性

総合的な探究の時間や学校設定教科における探究を通じて、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心を育む。

教育方法等の特色について

(1) 地域との連携

「総合的な探究の時間」では、地域住民を講師とした講話や出前講座等を行い、地域への知見を深める。「学校設定教科」については、市や町、商工会が主催する地域興隆イベントへの参加やフィールドワークを中心とし、地域住民と協働した活動を実施していく。また、地元の小中学校・公立保育園と連携し、本校生徒が地域の子どもたちに教科の基礎を楽しみながら学ばせる講座を開くなど、教科の知識習得と地域社会への貢献を両立させ、教科等横断的・年齢横断的な学びを実現する。

(2) 大学との連携した学び

地域住民との協働を円滑にするため、各連携大学の協力のもと、地域活性化とは何かについてのオンライン学習、大学教授等を講師とした出前授業、連携大学への研修旅行、大学のゼミと協働したフィールドワークなどを実施する。なお、各連携大学へ進学することにより生徒が学びを継続できるよう、高校段階で身につけておくべき知識を共有するなど、高大接続に向けた指導を相互に確認する。

(3) 校内での教科等横断的な学び

フィールドワークの実践を情報発信するにあたり、地域在住の外国人への対応のために、情報・地理歴史・外国語等の知識は必要不可欠である。フィールドワークを通じて、各教科の学習が生徒自身の日常や将来に有効な学びであることを確認させ、生徒自ら学ぶ姿勢を身につけ、教科からは情報発信技術や翻訳の在り方など、教科書の枠を超えた実践的な学びをフィードバックできるよう工夫する。

2-5 前年度（令和5年度）成果概要図



別紙様式5

3 事業の実施計画の概要及び本年度の計画

3-1 3ヶ年の実施計画の概要

【令和5年度（準備段階）】

(1) カリキュラムの研究開発

新学科設置プロジェクトチームを中心に、連携大学や既存の新学科設置校を視察し、地域探究科のカリキュラム案、総合的な探究の時間と学校設定教科の年間指導計画の概要を作成する。また、年3回の美和高マインド定例会議等を通じて、美和高マインド役員や連携大学の専門職員との検討を定期的に行い、学術的知見と地域のニーズを取り入れながらカリキュラム案の修正を行う。

(2) 地域連携センターの充実

地域連携センターにて新学科についての概要説明を行い、学科設置に向けての役割を明確化する。各連携機関による地域住民のニーズ調査、本校での出前講座やフィールドワーク実践時の講師及び生徒の探究活動に向けた指導・助言を役割の中心とする。また、あま市のみでなく、大治町等近隣市町村からも役員を選出する。

(3) 連携大学の拡充

大学と連携したオンライン講座、ゼミと協働したフィールドワーク等の生徒の高度な学びを充実するため、連携先を拡充する。現在、既に本校と高大接続協定を結んでいる名古屋文理大、星城大に加え、地域政策学科等を有する東海地区の大学等との連携を模索していく。

(4) 総合的な探究の時間の充実

新学科設置に向けた事前準備として、これまで既に実践してきている地域探究を充実させる。1・2年生を対象に、新学科設置時に実施予定の、地域と連携したフィールドワークの縮小版を総合的な探究の時間内に実施し、問題点を洗い出すなど、より効果的な探究の在り方について試行錯誤を重ねる。

【令和6年度（試行段階）】

(1) 地域住民の出前講座、地域と連携したフィールドワーク等の先行実施

現行の授業時間内で実施可能な出前講座や地域でのフィールドワークを一部先行して実施する。その際の改善点等を記録し、連携機関と共有する。

(2) 大学のオンライン講座等を先行実施

連携大学と協力し、オンライン講座等を先行実施する。その際、ネットワーク環境の確認や、生徒の理解度等を確認し、次年度以降の実施に向けた改善を図る。

(3) 総合的な探究の時間の深化

前年度までの学びを参考に、小中学生向けの高校生出前講座の一部を先行実施するなど、実践に向けたベースを完成させる。

【令和7年度（設置）】

令和7年度より、地域探究科を設置し、カリキュラムの運用を開始する。1年次は総合的な探究の時間と学校設定教科を中心に地域と連携する。開始後も地域連携センター等を活用して、地域のニーズを把握する機会を継続し、随時改善を図る。

3-2 本年度（令和6年度）の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	・新年度の新学科設置プロジェクトチームを編成する。 ・新学科設置に向けた年間予定を組み、職員に周知する。 ・職員会議にて、情報共有を行う。	・地域連携センター「美和高マインド」の新年度役員を選定し、委任する。その際、コンソーシアム役員と兼任であることの承諾を得る。 ・1学期に実施予定の地域行政探究・観光探究職業探究に向け、連携機関との協議を開始する。 ・職業講話の講師を選定・依頼する。
5月	・プロジェクトチームのミーティング年間予定を組む。（通年・月1回程度） ・職員会議にて、情報共有を行う。 ・考查期間等を利用し、既存の新学科設置校への視察を準備・実施する。 ・2年生生徒の観光協会訪問を実施する。	・役員へ当該年度第1回美和高マインド定例会議、コンソーシアム会議、運営指導委員会会議への出席の承諾を得る。
6月	・既存の連携大学との共同ゼミの時期や方法等、連携内容の詳細について協議を開始する。 ・1年生にて地域住民による職業講話を実施する。 ・2年生にて地域行政探究及び観光探究を開始する。	・連携大学への訪問・共同ゼミについての協議を開始する。 ・中学校訪問に向け、中学校との協議を開始する。
7月	・美和高マインド定例会議・コンソーシアム会議を通じ、各連携機関の代表者へ現状報告と新学科に対する聞き取りを行い、地域住民の要望を把握する。	・美和高マインド当該年度第2回定例会議・コンソーシアム会議・運営指導委員会会議を開催する。新学科に対する要望及び助言を受ける。
8月	・地域と連携したフィールドワークに公募生徒と教員が参加し、新学科での実践に向けて改善点を把握する。 ・希望生徒とともに既存の連携大学を訪問する。参加生徒と引率職員にアンケートを取り、次年度以降のカリキュラム開発に向けたデータ分析を行う。	・地域の各連携機関とともに地域活動を実践する。その際、新学科での実施を想定した実施方法をお互いに確認する。 ・連携大学への訪問を行う。 ・夏季休業中に、大学教授による地域政策の講義を受講する。
9月	・1年生の中学校訪問準備を開始する。・2年生にて地域行政探究・観光探究の発表を実施する。	・中学校訪問に向け、中学校の教員から生徒に向けたグループワーク実施時の助言を受ける。
10月	・観光協会との共同イベントを実施する。その際、生徒の活動を観察し、次年度以降の授業内容を検討する。 ・学校設定教科の年間指導計画作成を開始する。	・共同イベントについて、観光協会へ指導・助言を求める。その際、次年度以降の改善点をご指摘いただくことを要望する。
11月	・1年生が中学校訪問を実施し、高校生が主導するグループワークを実施する。その際、次年度に向けての評価・アドバイスを中学校側から受ける。	・中学校訪問への意見・助言をいただき、次年度実施に向けた指導計画作成の際にフィードバックする。
12月	・2年生にて、大学との共同ゼミを実施する。 ・当該年後の取組を振り返り、反省点を活かしながら次年度以降の総合的な探究の時間と、学校設定教科の年間指導計画を決定する。 ・休日を用いて大学訪問を実施する。	・大学との共同ゼミを実施し、次年度以降の改善点をご指摘いただく。
1月	・当該年度の地域活動を振り返り、職員会議にて報告する。同時に12月までに考案した年間指導計画を報告し、職員からの意見を集約する。	・美和高マインド当該年度第3回定例会議・コンソーシアム会議・運営指導委員会会議を実施する。年度内に実施した地域活動等を総括し、次年度以降への取組を提案し・要望と助言を受ける。
2月	・生徒・職員へ年度内に実施した授業やフィールドワークへのアンケートを実施し、データを分析する。	・地域の各連携機関・連携大学と、次年度以降の流れについて確認し、継続した連携を依頼する。
3月	・職員会議において、年度内の成果とカリキュラム開発の進捗について報告を行い、意見を集約する。次年度以降の総合的な探究の時間と学校設定教科について、指導内容の詳細を決定する。	

3-3 令和6年度年間予定

月	美和校内(校内予定・カリキュラム作成関係)	外部連携(大学) ※コンソーシアム	外部連携(地域) ※コンソーシアム	運営指導委員会
4月	・新年度プロジェクトチーム発足(通年) ・美和高マイナンド役員選出・委任 ・年間予定作成 ・観光探究調整スタート ・職業人講話講師選定・依頼 ・⑫ HP 更新(随時) ・美和高マイナンド定例会議(第1回) ・プロジェクトチームミーティング予定作成 ・⑫ 視察先確定・旅費申請等実施 ・観光協会及び七宝橋アートヴィレッジ訪問(2年生)	・美和高マイナンド第1回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・地域活動の打合せ・検討・実施(通年) ・地域活動への参加(随時) ・美和高マイナンド第1回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・美和高マイナンド第1回定例会議及び運営指導委員会の参加
5月	・⑫ 視察先確定・旅費申請等実施 ・観光協会及び七宝橋アートヴィレッジ訪問(2年生)		・観光協会及び七宝橋アートヴィレッジ訪問	
6月	・⑫ 既存の連携大学(名古屋文理・星城)と協議開始 ・⑫ 新規の連携大学の開拓・協議開始 ・⑫ 連携中学校と協議開始 ・総合的な探究の時間における観光探究の開始(2年生)	・連携に向けての協議開始 ※具体的な連携内容の確認 ※フィールドワーク・出前講座の詳細決定 ※オンライン講座の内容や方法の検討		・新規連携大学の開拓(美和高と協働) ・⑫ 連携中学校と協議開始
7月	・美和高マイナンド定例会議(第2回) ・⑫ 普通科改革事業実施校への視察(7～8月) ※事業費 ・⑫ HP・学校情報誌(校内・校外)の発行 ・⑫ 地域と連携したフィールドワーク(地域活動)実施 ※アンケートの実施とデータ分析 ・⑫ 連携大学とのフィールドワーク等の実施 ※参加職員と生徒へのアンケート実施 ※カリキュラム研究用データの収集 ・⑫ あま市広報への掲載依頼	・美和高マイナンド第2回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・美和高マイナンド第2回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・美和高マイナンド第2回定例会議及び運営指導委員会の参加
8月	・⑫ 地域と連携したフィールドワーク(地域活動)実施 ※アンケートの実施とデータ分析 ・⑫ 連携大学とのフィールドワーク等の実施 ※参加職員と生徒へのアンケート実施 ※カリキュラム研究用データの収集 ・⑫ あま市広報への掲載依頼	・講座の聴講・ゼミとのフィールドワーク等実施 ※アンケートの実施とデータ分析	・地域と連携したフィールドワーク(地域活動)実施 ※アンケートの実施とデータ分析	
9月	・職業人講話(1年生)の実施 ・総合的な探究の時間における観光探究の発表(2年生) ・⑫ 中学校訪問の準備開始		・職業人講話の講師派遣(商工会) ・美和高マイナンド定例会議 ※地域社会学科に対する聞き取りを実施	・⑫ 中学校訪問の準備開始
10月	・観光協会10周年記念行事(2年生) ・⑫ 学校設定教科の年間指導計画作成開始 ・⑫ 探究授業実施校の視察(考查期間中) ※県費		・観光協会10周年記念行事	・総合的な探究の時間への助言・指導
11月	・中学校訪問実施(1年生) ※運営指導委員・地域住民・保護者の参観検討 ・⑫ カリキュラムの仮確定			・中学校訪問の参観・助言・指導
12月	・大学との共同ゼミの実施(2年生) ・⑫ カリキュラムの報告・修正開始・年間指導計画決定 ・⑫ HP・学校情報誌(校内・校外)の発行	・共同ゼミの実施		
1月	・美和高マイナンド定例会議(第3回) ・⑫ カリキュラム確定 ・⑫ 地域社会学科(地域活動)紹介動画の作成 ・当該年度の地域活動報告(職会) ・生徒・職員へアンケート実施・データ分析	・美和高マイナンド第3回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・美和高マイナンド第3回定例会議及びコンソーシアム会議への参加	・美和高マイナンド当該年度第3回定例会議及び運営指導委員会への参加 ※当該年度の振り返り・カリキュラムへの助言 ・次年度以降の流れについて確認
2月	・当該年度の成果・カリキュラム開発の進捗報告(職会) ・生徒・職員へアンケート実施・データ分析	・次年度以降の流れについて確認	・次年度以降の流れについて確認	
3月	・総合的な探究の時間と学校設定科目の詳細計画決定 ・⑫ HP・学校情報誌(校内・校外)の発行			

第2章 実施計画に基づく事業実施報告

1 カリキュラム研究開発

今年度の計画

教員間での意識共有のため、複数の教員で既存の新学科設置校を視察し、地域探究科のカリキュラムのあり方や教育の目的を再確認する。

地域探究科のカリキュラムについては、本年度は試行段階に入る。現行の授業時間内で実施可能な出前講座や地域でのフィールドワークを一部先行して実施する。その際の改善点等を記録し、連携機関と共有する。また、連携大学と協力したオンライン講座や、小中学生向けの高校生出前講座の一部を先行実施する。並行して、ネットワーク環境の確認や、生徒の理解度等を確認し、次年度以降の実施に向けた改善を図る。

1-1 新学科設置校視察

以下の通り、既存の普通科改革支援事業指定校への視察を行った。

【視察先及び日程】

- | | |
|------------------|---------------------|
| (1) 熊本県立必由館高等学校 | 令和6年9月10日(火)・11日(水) |
| (2) 京都市立開建高等学校 | 令和6年10月25日(金) |
| (3) 広島市立美鈴が丘高等学校 | 令和6年11月12日(火) |

【視察内容】

以下の項目について、重点的に視察を行った。

- ・学校の概要
- ・地域連携の状況及び連携方法
- ・教育取組について(カリキュラム、授業内容、学校行事、部活動及び課外活動など)
- ・入試(中学校から高校への入学)の方法
- ・校内組織について(担当分掌・人数・分掌内役割分担等)
- ・新学科生徒の進路について

1-2 カリキュラム開発のための会議

運営指導委員会の体制および取組

【運営指導委員会の体制】

本校の運営指導委員会は「地域に根ざした事業主、地域政策を専門とした大学教授、連携機関の教育長、NPO 法人代表等によって組織」し、以下の委員で構成される。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会 顧問	山田 精二	「美和高マインド」顧問
あま市商工会 副会長	加藤 伸也	「美和高マインド」副センター長
名古屋文理大学	中村 麻理	同大学 健康生活学部 フードビジネス学科長 教授 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
星城大学	谷口 庄一	同大学 経営学部 教授 観光・まちづくり分野長 地域連携センター長 「美和高マインド」アドバイザー
あま市教育委員会	伊藤 克仁	教育長
大治町教育委員会	平野 香代子	教育長
NPO 法人ほっとネット・みわ	立松 愛唯	同法人 理事長 あま市市民活動センター代表 「美和高マインド」役員
愛知県教育委員会	加納 澄江	高等学校教育課 課長

なお、上記委員は、次の3点について、それぞれの専門的知見から学校に対して指導・助言を行う。

- (1) 「総合的な探究の時間」及び「学校設定教科」における教科等横断的な学びの充実
- (2) 学術的な観点と地域のニーズの両方に対応したカリキュラム開発の進捗
- (3) 生徒の活動と地域探究科の目的・目標の整合性

【運営指導委員会の取組】

今年度は、あま市商工会の役員交代に伴い、本校の運営指導委員に加藤伸也氏が年度途中から加わった。

また、愛知県教育委員会における人事異動に伴い、愛知県教育委員会からは加納氏が新たに委員となった。

上記委員に変更の上、5月と1月に、全2回の運営指導委員会を実施した。

第1回運営指導委員会会議(5月 17 日)

新規役員との情報共有のため、普通科改革支援事業の概要と今年度の予定について報告し、事業実施体制と内容についての指導・助言を受けた。

第2回運営指導委員会会議(1月 17 日)

新学科のカリキュラムの報告と、今年度の「総合的な探究の時間」の成果発表を実施し、次年度以降の計画についての指導・助言を受けた。

コンソーシアムの体制および取組

【コンソーシアムの体制】

本校は、スクールミッションの一つに「自らを律し、他者を思いやる心をもち、他者と協働して地域社会の発展に寄与しようとする生徒の育成を目指す学校」であることを掲げ、令和3年度に他校に先駆け地域連携センター「美和高マインド」を設置し、地域と学校との連携の在り方を模索するなど、地域連携を特色・魅力の一つとしている。地域探究科の設置目的である「地域の未来の担い手を育成する」ことを実現するため、大学や地域の関係機関などで構成する地域連携センター「美和高マインド」を母体とするコンソーシアムを構築し、地域と学校がさらに連携・協働した教育活動を継続して実施する。

今年度は以下の役員で構成されている。今年度からは、あま市観光協会からも役員を選出いただいている。

所属	氏名	主な実績
あま市商工会	船越 夏樹	あま市商工会 青年部長
あま市市長公室	片岡 篤志	企画政策課 課長補佐
あま市建設産業部	伊藤 善崇	商工観光課 係長
あま市市民生活部	加藤 昌也	人権推進課 係長
あま市社会福祉協議会	横井 達也	地域福祉課 主査
あま市教育委員会	山田 幹夫	生涯学習課 課長補佐
あま市教育委員会	水越 彰洋	学校教育課 主幹
大治町教育委員会	安立 豊子	学校教育課 主幹
美和高校同窓会長	調 有紀	美和高校学校評議委員
あま市観光協会	齋藤 知明	事務局長

【コンソーシアムの取組】

今年度は、5月、10月、1月に、全3回の定例会議を実施した。会議での協議内容は、以下の通りである。

第1回コンソーシアム会議(5月17日)

- ・今年度役員紹介
- ・新規役員を対象とした普通科改革支援事業についての周知
- ・昨年度までの取組報告
- ・今年度の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第2回コンソーシアム会議(10月25日)

- ・生徒による地域活動報告
- ・普通科改革支援事業進捗報告
- ・今年度後半の地域との協働活動についての提案・予定の確認

第3回コンソーシアム会議(1月17日)

- ・今年度の地域活動報告
- ・生徒による地域探究の成果発表
- ・次年度に向けての連携の確認

【成果と課題】

昨年度コンソーシアムから「職業人講話」「七宝焼講座」「観光探究」「防災学習」「共同ゼミ」等をご提案いただき、今年度は実施の年となった。地域や大学と連携した授業についての提案と、それを形にしていける流れができつつある。来年度は新たに入学してくる新学科の生徒を対象とした、より深い探究活動を伴う授業の設計が課題である。

コーディネーターの配置および活動内容

所属	氏名
愛知県立美和高等学校	近藤 純子

【コーディネーターの体制】

現在は週4日4時間程度、1名のコーディネーターが勤務している。

【コーディネーターの取組】

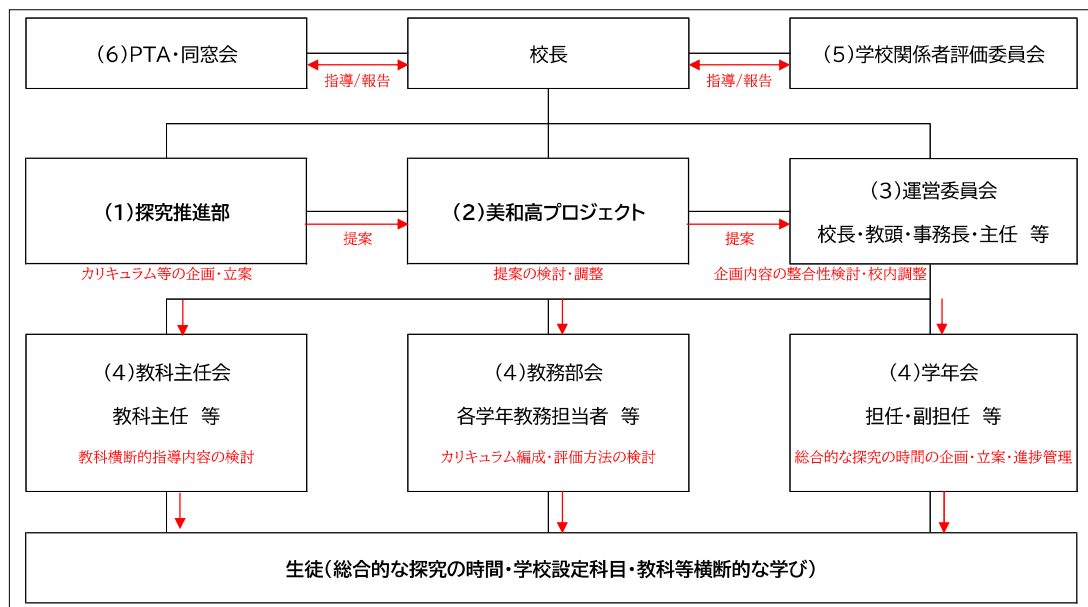
- ・高校コーディネーター研修(通年)への参加
- ・コンソーシアム会議(年3回)・運営指導委員会(年2回)への参加
- ・令和6年度「総合的な探究の時間」における職業人講話・福祉実践教室・防災学習の授業計画の作成と連携機関との打合せ

【成果と課題】

昨年度から、コーディネーターの勤務時間が大幅に増えたことに伴い、今年度は研修や会議等への参加に加え、「総合的な探究の時間」における授業計画の作成及び連携機関との打合せにもご尽力いただいた。また、コーディネーターがもつ幅広い人脈から、探究活動における新たな連携先や、チラシの配布先を新規に開拓いただくなど、新学科設置に向けた基盤づくりに大きく貢献いただいた。

校内の体制および取組

【校内の体制】



(1) 探究推進部

昨年度の新学科設置プロジェクトチームを引き継ぐ形で、新たな校務分掌として設置した。カリキュラムの企画・立案・関係機関との調整等を担当する。また、新学科のPRや説明のための動画作成やチラシ、リーフレット等の作成も担当する。

(2) 美和高プロジェクト

探究推進部だけでは決定できないカリキュラム検討など、他の分掌にも関係する内容について検討する機関として設置。校長、教頭と探究推進部主任、総務主任、教務主任、特別活動部主任、情報化推進者を構成員とするが、必要に応じて普通科改革コーディネーターや学年主任、教科主任等も参加する。

(3) 運営委員会

校長、教頭、事務長、分掌主任、学年主任等を構成員とし、探究推進部や美和高プロジェクトで検討した内容が学校目標や実情に沿うかを検討し、決定事項に関する校内での調整を行っている。

(4) 教科主任会・教務部会・学年会

各教科の主任及び教務部員、学年担当者等を構成員とし、カリキュラム委員会を組織した。本委員会にて、新学科のカリキュラム編成や学校設定科目の評価方法の検討等を行い、本事業における生徒の学びの調整を図っている。

(5) 学校関係者評価委員会

学校評議員4名を構成員とし、学校評議員会にて、新学科設置に向けた学校の取組等を評価いただいた。

(6) PTA・同窓会

新学科設置に向けた学校の取組等について連絡・協議し、学校の教育環境の整備充実のために協力・援助していただいている。

【校内の取組】

毎週水曜日3時間目を探究推進部会、毎週金曜日1時間目を美和高プロジェクト事前打ち合わせ会として時間割に設定した。探究推進部会でカリキュラムや広報について企画・立案した内容を、事前打ち合わせ会にて確認・修正し、美和高プロジェクト本会議(月1回程度開催)に提案した。承認された内容については、運営委員会で最終調整の上、各分掌会・教科会・学年会で共有する流れをつくった。

1-3 新学科カリキュラム

既存校視察や、コンソーシアム及び運営指導委員会からの指導・助言を元に校内で検討を重ねた結果、地域探究科のカリキュラムは以下の通りに確定した。

令和7年度 教育課程（地域探究科）

学校番号 72

愛知県立美和高等学校

教科	科目	標準 単位数	第1学年	第2学年	第3学年	計	備 考
			全	全	全	全	
国 語	現代の国語	②	2			2	
	言語文化	②	2			2	
	論理国語	4		2	2	4	
	古典探究	4		2	2	4	
地 歴	地理総合	②			2	2	(ア) 2, 3年生「日本史探究」「世界史探究」は継続で選択履修する。 (イ) 3年生「日本史研究」は「日本史探究」、「世界史研究」は「世界史探究」の選択者に限る。
	歴史総合	②	2			2	
	日本史探究	3		◆ 3	◆ 3	6, 0	
	世界史探究	3		◆ 3	◆ 3	6, 0	
	日本史研究*	3			□ 2	2, 0	
	世界史研究*	3			□ 2	2, 0	
公 民	公 共	②		2		2	
	政治・経済	2			2	2	
数 学	数 学 I	③	2			2	(ア) 1年生「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」は期間履修とする。
	数 学 II	4	1	2		3	
	数 学 III	3			◆ 3	0, 3	
	数 学 A	2	2			2	
	数 学 B	2			1	1	
	数 学 C	2			2	2	
理 科	物 理 基 礎	2	2			2	
	化 学 基 礎	2		2		2	
	生 物 基 礎	2			2	2	
	物 理	4		◆ 3		0, 3	
	理 科 研 究 *	2			□ 2	0, 2	
保 体	体 育	⑦⑧	2	3	3	8	
	保 健	②	1	1		2	
芸 術	美 術 I	②	2			2	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	③	3			3	
	英語コミュニケーションⅡ	4		4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	
	論理・表現Ⅰ	2	2			2	
	論理・表現Ⅱ	2		2		2	
家 庭	家 庭 基 礎	②	2			2	
情 報	情 報 I	②		2		2	
地域探究	地 域 探 究 I *	2	2			2	
	地 域 探 究 II *	2		2		2	
	未 来 探 究 *	2			2	2	
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		③～6	4	4	4	12	
計			32	32	32	96	

(1) ◆印・□印の科目を「選択科目」とし、それぞれ1科目を選択履修する。

1-4 ルーブリック及び評価方法

カリキュラム開発会議及び運営指導委員会の指導を受け、本校の探究活動の時間は以下の通りのルーブリックを用いて評価する。

愛知県立美和高等学校 地域探究科 学校設定教科「地域探究」及び「総合的な探究の時間」 評価表（ルーブリック） 地域探究科で育みたい力：課題発見力 情報活用能力 問題解決力 実践力 対話力 思いやり 豊かな人間性 あるべき姿：地域を広い視点で分析できるリーダー 活動をできるリーダー 地域を巻き込めるリーダー					
育みたい力	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E
課題発見力 (発問・分析)	他世代や国際的視点に基づく広い視野をもとに状況を正しく理解し判断し、分析した上で課題を設定できる。(広い視野)	地域の状況を理解し、判断し、分析した上で課題を設定できる。(地域の視点)	自分の置かれた状況を理解し、判断し、分析した上で課題を設定できる。(自己分析)	自分の興味関心をもとに、課題を設定できる。(興味関心)	身近な事柄に疑問を持つことができる。(発問のスタート)
情報活用能力 (知識・技能)	地域から得た知識を多角的・批判的視点から分析し、ICT 技術を駆使し、他者にわかりやすい資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(他者への情報提供)	地域から得た知識を分析し、ICT 技術を駆使し、自ら作成した資料を用いてプレゼンテーションを行うことができる。(情報発表)	必要な情報を適切な情報源(資料・人)から正しく収集し判断し、ICT 技術を使ってまとめることができる。(情報判断)	必要な情報を適切な情報源(資料・人)から正しく収集し、ICT 技術を使ってまとめることができる。(正しい情報収集)	必要な知識を調べ、資料にまとめることができる。(情報収集)
問題解決力 (解決策の提案)	具体的な数値目標や原因分析・修正点を含む解決策を提案することができる。(具体的解決策の提案)	原因分析・修正点を含む解決策を提案することができる。(解決策の提案)	原因を分析し、解決策を検討することができる。(解決策の検討)	問題が起こっている原因を分析し、修正点を洗い出すことができる。(原因分析)	問題が起こっている原因を考察することができる。(原因調査)
実践力 (行動・実績)	自身が提案した解決策を実行に移すことができる。また、地域が必要とする活動に主体的に参加し、生き生きと活動することができる。(主体的な行動)	提案された解決策に対し、自身の役割を理解し、積極的に行動することができる。また、地域が必要とする活動にも自ら参加する。(積極的な行動)	提案された解決策に対し、割り当てられた役割を果たすことができる。(適切な行動)	割り当てられた役割に対し、指示された通りに活動することができる。(役割に基づく行動)	割り当てられた役割を理解することができる。(役割の理解)
対話力 (交流・主体性)	異年齢・他文化の住民の特性を理解し、お互いの立場を尊重しながら、自らの意思も伝えることができる。(主体的な交流)	相手の立場を理解し、自分の伝えたい事柄を伝え、積極的に対話することができる。(積極的な交流)	相手の発言を理解するよう努めながら、自分の伝えたい事柄を伝え、活発に交流することができる。(活発な交流)	自分の伝えたい事柄を正しく伝えることができる。(情報発信)	必要な事柄を聞き取り、伝えることができる。(情報交換)
思いやり (他者への理解)	異年齢・他文化の住民の特性を尊重し、お互いに心地よい交流ができるよう努めることができる。(適切な行動・リーダーシップ)	相手の立場を理解し、適切な発言をし、必要であれば補助する行動ができる。(他者への配慮・チームワーク)	相手の立場を理解し、適切な発言をすることができる。(他者への理解)	相手の発言の背景にある状況を理解しようとする努力ができる。(状況理解)	相手の状況を把握しようとする努力ができる。(状況把握)
豊かな人間性 (全般)	オープンマインドをもち、他者を思いやりつつも自身のやるべき課題を認識し、自ら解決に向けて動くことができる。	地域社会全体を見渡せる視野をもち、周囲を思いやりながら積極的に行動することができる。	活動する地域の中で、周囲を思いやりながら行動することができる。	普段から交流のある組織・団体の中で、周囲の様子に気を配りながら行動することができる。	限定された組織・グループの中で、周囲と協力して必要な行動をすることができる。

また、上記のルーブリックによる5段階評価とは別に、評価ツールの AiGROW を採用し、定期的な受検と、探究力についての面談を学期ごとに実施し、生徒の探究力の育成を図る。

2 「総合的な探究の時間」の深化

2-1 本年度（令和6年度）の「総合的な探究の時間」の年間指導計画

事業実施計画において、本校は令和6年度をカリキュラムの試行実施期間としている。昨年度の取組を元に、次の通り、令和6年度の「総合的な探究の時間」の年間指導計画を作成した。なお、令和6年度は新学科設置の前年となるため、既存の普通科にて、各学年1時間の「総合的な探究の時間」が設定されている。

【1年生】

令和6年度 1年生「総合」 年間指導計画			テーマ：自分をみつめる（美を知る）		
学期	学 習 内 容	時数	指 導 内 容 (指 導 体 制)	身に付けたい資質・能力	評 価 方 法
1	1 オリエンテーション	1	探究活動についてのオリエンテーションを行う。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物
	2 中学校の振り返り・高校の目標設定	1	中学時代を振り返り、できたこと・できなかったことの反省を元に、よりよい高校生活を送るための具体的な目標を、自分の将来を見据えて設定させる。		
	3 自分のことをもっと知ろう (自己PRを書いてみよう)	1	自分の長所・短所についてまとめ、自己PRを書かせる。高校の面接質問事項や、エントリーシートを参考にする。		
	4 文理選択について考えよう	1	自分の得意・不得意を見つめ、やりたいことを探し、該当分野が文系理系のどちらになるかを調べさせる。		
	5 学部学科ガイダンスを聞こう	2	教員による学部学科ガイダンスを実施する。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物
	6 職業人講話を聞こう	2	職業人に話を聞くことを通じ、「働くこと」の意味を理解させる。		発表内容及び態度
	7 職業について考えよう	2	職業人講話を参考に、将来なりたい職業について、1人1つずつ発表させる。○組職業図鑑を作成する。		授業態度及び提出物
	8 問題解決について学ぼう	2	問題解決テキストをもとに、探究活動に結びつく「問題解決」とは何かを学ぶ		授業態度及び提出物
	9 進みたい学科・職業について考えよう	1	1学期を振り返り、自分の将来について考えをまとめる。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物
2	1 進路選択についての自分の考えをまとめよう	1	高校選択の際の自分の考えをまとめ、進路選択の際に大切だと思うことをまとめる。	課題発見力・情報活用力	発表内容及び態度
	2 高校の学科について調べよう	2	愛知県内の高校がもつ学科について調べ、発表する。		授業態度及び提出物
	3 中学校の進路主任の話を聞いてみよう	1	あま市・大治町の進路主任から、高校選択時の指導で留意している点についての講話を聞く。		
	4 中学校訪問の内容を考えよう	2	班別に中学校訪問の進め方を検討し、授業内容をまとめさせる。また、完成後は実際にロールプレイを行う。	問題解決力・実践力・対話力	発表内容及び態度
	5 中学生訪問をシミュレーションしよう	2			
	6 中学校を訪問しよう	2	中学校を訪問し、進路選択についてのグループワークを実施する。	実践力・対話力・思いやり	活動への取組及び自己評価
	7 福祉について考えよう	1			
	8 福祉実践教室準備	1	班別に分かれて行う疑似体験を通じ、バリアフリー社会への理解を深める。また地域との連携についても考えさせる。	課題発見力・対話力・思いやり・豊かな人間性	活動への取組及び提出物
	9 福祉実践教室に取り組みよう	2			
	10 2学期を振り返ろう	1	2学期の振り返りを通じ、目標設定に対する振り返りをさせる。	課題発見力	自己評価
3	1 平和について学ぼう	1	平和とはどういう状態だと思うか、各自の考えをまとめる。	課題発見力・問題解決力・思いやり・豊かな人間性・対話力	活動への取組及び発表内容
	2 世界の国々を調べてみよう	1	世界の国々の状況・世界平和への取組の例、平和記念公園の役割などを調べ、平和のために私たちにできることをまとめて発表する。		
	3 今起っている戦争について調べよう	1			
	4 平和のためにできることを考えよう	2			
	5 全体発表会	1			
	6 1年間の振り返ろう	1	1年間の取組への振り返りを通じ、ポートフォリオを作成させる。		授業態度及び提出物
35					

【2年生】

令和6年度 2年生「総合」 年間指導計画				テーマ：交流する（和をつくる）	
学期	学 習 内 容	時 数	指 導 方 法 (指 導 体 制)	身に付けたい資質・能力	評 価 方 法
1	1 2年生をスタートしよう	1	2年生の目標を設定させる。	課題発見力	授業態度及び提出物
	2 あま市について知ろう	1	あま市役所の仕事について調べ、質問項目を考える。	課題発見力・対話力	授業態度及び提出物
	3 あま市の行政について学ぼう	2	あま市庁舎を訪問orあま市役所の職員訪問にて、各課の仕事を知る。		
	4 あま市の観光について知ろう	3	七宝焼アートヴィレッジを訪問・七宝焼と観光協会の仕事について説明を受ける。	課題発見力・対話力	授業態度及び提出物
	5 あま市観光協会に提案書を作ろう	2	あま市の観光の問題点をまとめ、改善提案をする。	課題発見力・対話力 ・問題解決力・情報活用力	発表内容及び態度
	6 クラス発表・全体発表会	2	※コンテスト等に出せる形にする。		
	7 観光協会10周年のお手伝い	2	※詳細は観光協会と打ち合わせの上決定	対話力・実践力 思いやり・豊かな人間性	活動への取組及び発表内容
1 観光協会10周年のお手伝い	4	※詳細は観光協会と打ち合わせの上決定			
2	(観光協会10周年10月5日(土))		公募生徒にて参加		
	2 修学旅行の準備をしよう	3	修学旅行先についての調べ学習を行う。	課題発見力・情報活用力	授業態度及び提出物
	(七宝焼シンポジウム11月3日)		公募生徒にて参加		
	3 進路講演会を聞こう	1	入試の形式等についての進路講演会を聞く。	課題発見力	
	4 大学について調べよう	2	自分の興味・関心のある学問の探究を通じて、学問に対する理解を深めるとともに、将来の目標設定につなげさせる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・対話力	授業態度及び提出物
	5 大学で学べることを知ろう (三重大・福井大・東大)	2			
	6 大学のゼミを体験しよう (星城・名古屋文理)	2			
	(土日に大学訪問《星城・名古屋文理》)		希望生徒にて参加		
	7 自分の進路について考えよう	1	2学期までの内容を元に、自分の進路についての希望をまとめる。	課題発見力・情報活用力	自己評価
3	1 3学期の学習目標を設定しよう	1	自分の進路目標に対し、入試のしくみや、それぞれの入試で必要とされている力、なぜそれが問われるのかについて調べ、発表を行う。進路実現のために必要な力と、その力を身に付ける手だてについて理解させる。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力	活動への取組及び発表内容
	2 入試探究	5			
	3 3年生の目標を考えよう	1			

35

【3年生】

令和6年度 3年生「総合」 年間指導計画			テーマ：未来をみつめる（未来を拓く）			
学期	学 習 内 容	時数	指 導 方 法 (指 導 体 制)	身に付けたい資質・能力	評 価 方 法	
1	1 3年生をスタートしよう	1	3年生の一年間に向け、具体的な目標を設定させる。	課題発見力	授業態度及び提出物	
	2 小論文の書き方を学ぼう	2	自分の興味・関心のある課題について、テーマを設定して小論文を書かせる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力	授業態度及び提出物	
	3 小論文を書いてみよう	2				
	4 自分の行きたい大学・学校について調べよう	2	自分の行きたい大学、学校、学部について調べ、クラス内で発表する。	課題発見力・情報活用力・対話力	授業態度及び提出物	
	5 OB訪問	2	大学生のOB、OGを招いて、進路選択時に留意した点などについての講話を聞く。	課題発見力・情報活用力・対話力		
	6 志望理由を整理してみよう	1	自分が志望校を志望する理由について、箇条書きで整理させる。	課題発見力・情報活用力・問題解決力・実践力		
	7 志望理由をまとめてみよう	2	前時間の志望理由を元に、志望理由を400～600字程度の文章にまとさせる。			
	8 全体発表	1	前回まとめた自分の志望理由について、グループ内等で発表させる。	情報活用力・対話力	活動への取組及び発表内容	
	9 1学期の学習成果を振り返ろう	1	1学期の振り返りを通じ、目標設定に対する振り返りをさせる。	課題発見力	自己評価	
1 2学期の学習目標を設定しよう	1	1学期での振り返りを踏まえて2学期の具体的な目標を設定させる。	課題発見力			
2	2 志望理由書を書いてみよう	4	1学期の内容を元に、実際の大学の例に触れつつ、志望理由書を書く。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力	活動への取組及び発表内容	
	3 クラス発表会	2	各自でまとめた内容について、グループ発表、グループ代表者はクラス内発表をする。			
	4 進路課題探究	7	各自で決めた研究テーマに従って、調べ学習をしたりさせる。必要があればフィールドワーク等行う。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力・思いやり		
	5 2学期の学習成果を振り返ろう	1	2学期の振り返りを通じ、目標設定に対する振り返りをさせる。	課題発見力		自己評価
	1 3学期の学習目標を設定しよう	1	2学期での振り返りを踏まえて3学期の具体的な目標を設定させる。	課題発見力		
3	2 進路課題探究	2	PowerPointなどを利用し、各自でまとめた研究内容を発表会に向けて準備し、発表させる。	課題発見力・情報活用力・対話力・問題解決力・実践力・思いやり・豊かな人間性	活動への取組及び自己評価	
	3 研究発表会	1				
	4 ポートフォリオを完成させよう	1				1年間の取組への振り返りを通じ、ポートフォリオを作成させる。
	5 3年間を振り返ろう	1				高校3年間の探究活動の成果について、振り返りをさせる。
	35					

2-2 1年生での「総合的な探究の時間」の取組（地域・大学等との連携授業のみ抜粋）

①問題解決学習（連携機関：品質管理学会）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	6月6日(木)	身近な問題に気付こう (問題の発見・原因遡及と対策案の検討・対策案の実行)	自分の身近な問題について考え、グループで問題の原因と対策案を検討し、発表する。次回授業までに対策案を実行する。
2	6月13日(木)	問題解決を学ぼう (対策の効果検証・問題解決概要)	実行した対策案の効果を検証する。問題解決の概要について学ぶ。

【目的】

日本品質管理学会作成の「問題解決テキスト」を使用し、日常にある問題を解決していく科学的な手法を学ぶ。ご提供いただいたテキストをもとに、グループで「問題の発見」・「原因の遡及と対策案の検討」・「対策案の実行」・「効果検証」をする活動を通し、探究活動のベースにもなる「問題解決」の流れを確認させる。

【内容】

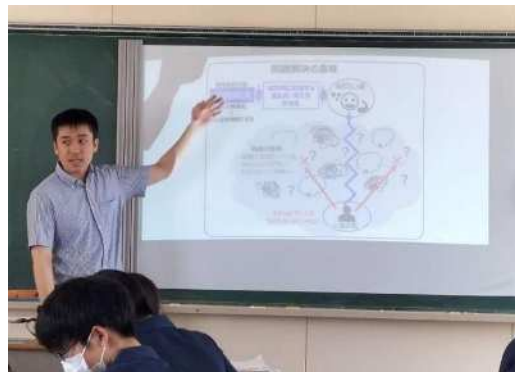
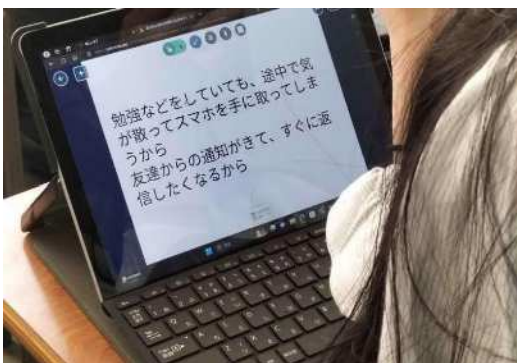
1 時間目

1. 各自の抱える問題について手元のメモに記入し、グループ内で共有する。
2. テキストの図を使用し、「問題」とは「ありたい姿(理想)」と「現実」のギャップであることを認識する。
3. 今回の授業では、グループ全員で「スマホの使用」について検討することを指示する。
4. 「自分の思う適正スマホ使用時間」・「勉強と両立するための適正スマホ使用時間」を考える。
→多くの生徒が「適正使用時間」よりかなり長くスマホを使用している、と回答。（問題の発見）
5. グループでスマホの使用時間が長くなる理由を考え、クラスで共有する。（原因の遡及）
6. 各自のスマホのスクリーンタイムとアプリの使用時間を確認し、共有する。
7. スクリーンタイムとアプリ使用時間の情報を元に、各グループでスマホの使用時間を減らす対策案を考える。（対策案の検討）
8. 対策案を発表する。
9. 次回授業まで、各グループで考えた対策案を1週間実施する。（対策案の実行）

2 時間目

1. 各自のスマホのスクリーンタイムを確認し、結果を共有する。
2. グループで対策案の実施状況(やったか、やらなかったか)・有効性(効果があったか)・問題点(何がダメだったか)を検証する。（対策の効果検証）
3. 検証結果を発表する。
4. 各グループで、今後スマホとどう付き合おうと思ったか意見交換する。
5. 「問題解決テキスト」から、問題解決の概要を学ぶ。（問題解決概要）

【授業の様子】



【成果と課題】

今回の「問題解決学習」は日本品質管理学会から「制作段階のテキストを使用した授業を実践して欲しい」という依頼を受け、2時間のパッケージ授業として実施した。「問題解決」は探究的な学びと共通し、課題の設定(問題の発見)、情報の収集・整理・分析(原因の遡及)、まとめ・表現(対策案の検討・実行・効果検証)する流れがある。民間企業で用いられる「問題解決」の手法の一端に触れることにより、「身近な問題も、解決に向け自分たちで流れをつくることができる」と気づくことができた生徒も多かった。2時間で問題解決の大まかな流れをつかめたことは、これから探究活動を実施していく上で有益であったと考える。

ただし、2時間という短時間での実施であったことから、理解が浅い生徒も多く、今後も折に触れ「問題解決」の流れをふり返ることが必要である。

②職業人講話（連携機関：あま市商工会）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	9月19日(木)	地域の職業人の話を聞こう	地域で活躍する職業人の話を聞き、「働くこと」の意味を理解し、自分の将来について考える。

【目的】

地域で活躍する職業人の講話を聞き、高校生である今、対応すべき課題を自ら発見する力を養うとともに、生徒自身の進路や将来を考える機会とする。

【内容】

講師一覧をもとに、各自が興味をもった業種を選び、講話を聞く。講話の内容についての質疑応答を実施し、講師の職業観や高校生へのアドバイス等を聞き取る。

【講師一覧（あま市商工会より派遣）】

	講師名（敬称略）	企業名	業種
1	江尻 春樹	信濃工業(株)	製造業
2	井戸 輝政	日本空手道 学心会	空手道場
3	松田 明久	(株)美和製作所	製造業
4	井出 雅人	(株)ケア・フロンティア	介護業
5	辻 勇夫	(株)ツジ薬局	医薬品小売業
6	山田 真	(株)AUTO DOCTOR	自動車修理業
7	木下 陸海	(有)加藤電気工事	電気工事業
8	平野 照幸	(株)河村産業所	建設業

【授業の様子】





【成果と課題】

例年講師をお願いしている、あま市商工会から8名の講師を派遣いただいた。毎年足を運んでくださる講師の方も複数おり、前年度の生徒の様子等も考慮に入れた上で、進路選択に対し、本校生徒に合った適切なアドバイスをいただくことができた。

あま市商工会の有志の講師による講話であることから、普段高校生と関わりのない業務を行う企業も多く、これまで知らなかった業種や企業を知る良い機会となったようである。講師の先生方からも、次年度以降も継続される場合は是非協力したい、との前向きな言葉をいただいた。

現在は時間割の関係上、2時間連続での単発での学習活動となっていることから、次年度以降は、生徒が自らの興味・関心をもとに出てきた疑問を解決できる時間となるよう、事前・事後の学習を含めた授業の流れを組み立てることが課題である。

③福祉実践教室（連携機関：あま市社会福祉協議会）

【日程】

No.	実施日	テーマ	実施内容
1	9月26日(木)	福祉とは何か考えよう (事前指導)	あま市社会福祉協議会提供の教材を用い、「福祉」とは何か、日常生活のさまざまな場面を思い出しながら考えるグループワークを実施する。
2	10月10日(木)	福祉実践教室（2時間）	講師の指導のもと、さまざまなハンディキャップをもつ方々の生活を疑似体験する。
3	10月17日(木)	福祉についての学びを共有しよう（事後指導）	福祉実践教室を通じて得た学びをグループ・クラスで共有する。

【目的】

地域の講師による講座及び体験学習の過程を通じて、生徒が「ふくし」を自分事として捉え、身近な生活での課題を発見する力（課題発見力）を育み、「共に生きる」ことの大切さや思いやりを学ぶ。

【内容】

事前学習と講座一覧をもとに、各自が興味をもった分野を選び、福祉実践教室へ参加する。福祉実践教室で学んだ内容については、事後にグループ・クラスで共有する。

【講座一覧（あま市社会福祉協議会より講師を派遣）】

講座名	講師	生徒	会場
手話	3名	30名	1年3組教室
	3名	30名	1年5組教室
点字	4名	40名	会議室
車椅子	2名	40名 (2名×20組)	被服室⇒ 本館棟外周
高齢者 疑似体験	2名	40名	体育館
妊婦・育児 講座	6名	20名	武道場

【授業の様子】



【成果と課題】

今年度はあま市社会福祉協議会の協力を得て、通常の福祉実践教室への講師派遣とともに、事前学習の教材提供と、事後学習の講師派遣にもご協力いただいた。福祉に関する予備知識を得た上での体験と、ふり返し学習という一連の流れができたことで、地域福祉への理解が深まったという感想を述べる生徒が多かった。また、今年度本校で初めて実施いただいた妊婦・育児講座では、父親教室での妊婦体験ベストの着用等に拒否反応を示す成人男性も多い中、高校生は素直に前向きに実施している様子があり、学生という若い時期からの育児講座の意義を感じた、と感想を述べられた講師の先生もあった。

次年度は、「体験」に留まらない福祉への探究活動の形を考えていきたい。

④中学校訪問（連携機関：あま市立中学校・大治町立中学校）

【日程】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
1	10月24日(木)	中学校訪問の目的を知ろう	教務主任の講話を聞き、目的を理解する。 グループに分かれ、自己紹介する。
2	10月31日(木)	各中学校の要望を知ろう 自己紹介文を考えよう	中学校からの要望を理解する。その上で自分を紹介する文を考える。
3	11月7日(木)	中学生へのアドバイスを考えよう	各クラスでグループに分かれ、中学生へのアドバイスを考える。 担任は中学校の要望とそれとないか随時確認する。
4	11月14日(木)	中学生へのアドバイスを発表しよう	各グループで考えた中学生へのアドバイスを発表する。担任・副担任で、要望とのずれがないかの確認も含めてアドバイスする。
5	11月21日(木)	中学生へのアドバイスを再確認しよう 役割分担しよう	中学校別の訪問グループに分かれ、各クラスで出たアドバイスを共有する。中学校別の担当教員で、要望とのずれがないかを再度確認する。また、各グループで当日の役割分担をする。
6	12月5日(木)	シミュレーションしよう	中学校別の訪問グループに分かれ、シミュレーションする。
7	12月12日(木)	大治町立中学校訪問 (3・5組)	3・5組の生徒は大治町立中学校を訪問する。
8	12月13日(金)	あま市立中学校訪問 (全クラス)	1年生全員であま市立中学校を訪問する。

【目的】

中学校でのキャリア教育の流れを踏まえ、中学2年生の2学期後半の「総合的な学習の時間」において、高校生が中学校を訪問し、中学生と対話型の探究活動を行うことを通じ、中学生の自己の進路決定に向けた疑問の解消や目標の設定につなげる。高校生は中学生との対話を通じ、以下に記載の「身に付けたい力」を育むことを目的とする。

【身に付けたい力】

ア 複数の中学生と対話することを通じ、コミュニケーション力を育成する。

（対話力・思いやり・豊かな人間性）

イ 対話に向けての準備を通じ、必要な情報を収集してまとめ、活用する力を身に付ける。

（課題発見力・情報活用力）

ウ 中学生と対話することで自己を振り返り、今後の進路や学校生活の目標設定につなげる。

（問題解決力・実践力）

【内容】

- ・高校生は、学校紹介と探究活動の流れについてプレゼンテーションを行う。
- ・中学生5～6人(1クラス8グループ程度)に高校生1人で対話し、1回 10分程度でローテーションする。
- ・高校生が中学生へ進路決定の際の自分の体験について話すとともに、中学生時代を振り返ったアドバイス等を伝える。
- ・中学生からの進路決定に向けた疑問や不安などについて質疑応答する。

【ワークシート】

1 時間目

1 年生 総合的な探究の時間 中学校訪問①

2024 年 10 月 24 日(木)

今回の総合的な探究の時間は「**中学校訪問**」です。
これから受検について考え始める中学2年生に、高校生としてアドバイスをしましょう。

なお、この「総合的な探究の時間」は「**探究**」を行う時間です。探究とは、「①問いを立て ②情報を収集・分析し ③計画と協力しながら ④課題の解決に向かう姿勢を身につける」学習方法です。今回はこの①～④を意識して活動していきましょう。

【本日及び今後の日程】

No.	実施予定日	時程	テーマ	実施内容
1	10 月 24 日(木)	6限	中学校訪問の目的を 知ろう (場所:体育館 or 武道場)	教務主任の講話を聞き、目的を理解する。 12 月 13 日のグループに分かれ、自己紹介する。
2	10 月 31 日(木)	6限	各中学校の要望を知らう 自己紹介文を考えよう (各クラス)	6中学校からの要望を理解する。その上で自分を 紹介する文を考える。
3	11 月 6 日(水)	昼休み ～5限 (LT)	七宝北中学校訪問 (地域活動部1年生)	地域活動部の生徒は七宝北中学校を訪問し、昼 食を食べながら交流する。 ※地域活動部は別途事前の指導あり。
4	11 月 7 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを 考えよう (場所:各クラス)	各クラスでグループに分かれ(1・2・4組は指定な し、3・5組は大治中訪問時のグループ)、中学生 へのアドバイスを考える。担任は要望とそれでない いか随時確認する。
5	11 月 14 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを 発表しよう (3・5組は大治中の役割 分担) (場所:各クラス)	各グループで考えた中学生へのアドバイスを発表 する。担任・副担任で、要望とのずれがないかの 確認も含めてアドバイスを。3・5組は大治中の 役割分担も行う。
6	11 月 21 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを 再確認しよう 役割分担しよう (場所:訪問中学校別)	12 月 13 日の中学校別の訪問グループに分か れ、各クラスで出たアドバイスを共有する。担当教 員で、要望とのずれがないかを再度確認する。 また、各グループで当日の役割分担をする。 基目寺中・基目寺南中は発表の練習も実施する。
7	12 月 5 日(木)	6限	シミュレーションしよう (場所:訪問中学校別)	中学校別の訪問グループに分かれ、シミュレーシ ョンする。
8	12 月 12 日(木)	5・6限	大治中学校訪問 (3・5組)	3・5組の生徒は大治中を訪問する。
9	12 月 13 日(金)	5・6限	七宝・基目寺・基目寺南 ・美和中学校訪問 (全クラス)	全クラス中学校訪問。

1 年生 総合的な探究の時間 中学校訪問① レポート

2024 年 10 月 24 日(木)

1 年()組()番 氏名()

【本日の Mission】
Mission1 目的を理解しよう ※教務主任の話を聞き、中学校訪問の目的をまとめよう。

Mission2 自己紹介しよう ※12 月 13 日のグループに分かれ、自己紹介しよう。また、グループ
の他のメンバーについて、聞き取った情報をまとめよう。お互いを知り、チームをつくりあげよう。

	氏名	出身中学校	部活	特技など
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

「よろしくお願いします!」

2 時間目

1 年生 総合的な探究の時間 中学校訪問②

2024 年 10 月 31 日(木)

この「総合的な探究の時間」は「**探究**」を行う時間です。探究とは、「①問いを立て ②情報を収集・分析し ③計画と協力しながら ④課題の解決に向かう姿勢を身につける」学習方法です。今回はこの①～④を意識して活動していきましょう。

【本日及び今後の日程】

No.	実施予定日	時程	テーマ
2	10 月 31 日(木)	6限	各中学校の要望を知らう・自己紹介文を考えよう(場所:各クラス)
3	11 月 6 日(水)	昼休み～5限	七宝北中学校訪問(地域活動部1年生)
4	11 月 7 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを考えよう(場所:各クラス)
5	11 月 14 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを発表しよう (3・5組は大治中の役割分担)(場所:各クラス)
6	11 月 21 日(木)	6限	中学生へのアドバイスを再確認しよう・役割分担しよう(発表練習) (場所:訪問中学校別)
7	12 月 5 日(木)	6限	シミュレーションしよう(場所:訪問中学校別)
8	12 月 12 日(木)	5・6限	大治中学校訪問(3・5組)
9	12 月 13 日(金)	5・6限	七宝・基目寺・基目寺南・美和中学校訪問(全クラス)

【本日の内容】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
2	10 月 31 日(木)	各中学校の要望を知らう	6中学校からの要望を理解する。その上で自分を 自己紹介文を考えよう(各クラス)

これから皆さんは、今から**人生で初めての受検に備えていく中学校2年生に、「3学期の過ごし方」についてアドバイス**します。中学校3年生になる前に何を学んでおくべきだったか、どんな準備をしておけばよかったか、自分の中学校生活を振り返り、アドバイスを考えていきましょう。

ただし、中学校にはその中学生を預かり、それぞれに合った進路選択ができるよう心を込めて指導されている先生方がいます。中学校の先生方からの要望もきちんと把握し、自分の感想をそのまま述べるのではなく、**本当に中学生や先生方のためになるアドバイスができるよう**しっかり考えてください。

【今回の探究のテーマ】

① **問いを立てよう**「本当に中学生のためになるアドバイスとは?」「自分が中学生なら聞きたいアドバイスは?または、受検を前に聞きたい言葉は?」「美和高校ではない学校への志望を志す生徒にも役に立つアドバイスとは?」「自分が中学校の先生なら、高校生に何をしてほしいと思う?反対に、自分の生徒に言ってほしくない言葉とは?」その他にも、自分で問いを立てて考えてみましょう。

【今回あなたが立てた問いは?】

② **情報を整理・分析しよう** 中学校の先生方から、以下の要望が来ています。これらの要望を踏まえ、皆さんが取るべき行動・行動を分析してみましょう。

(例)きちんと挨拶が必要。「勉強しなくても高校に行けるよ」などのネガティブな発言は絶対ダメ。など

【各中学校からの要望】

★七宝中学校からの要望

- ・全学年向け(2クラス)にプレゼンテーションとグループディスカッションを行ってほしい。
- ・プレゼン内容は、キャリア教育を進める上で、「探究」する力の必要性・中学生とこれから進めたい学習について、などを高校生の目線で話していただきたい。
- ・グループディスカッションは、高校生に対して本校生徒が情報収集をする形式で行いたい。(質疑応答の形)
- ・七宝北中学校代表から、弁当の日の取組について紹介させてもらいたい。

★基目寺中学校からの要望

- ・派遣生徒は基目寺中学校の卒業生以外でお願いしたい。
- ・発言内容については、これから本格的に進路について考え始める中学生が、「前向きになれる内容」「これからこういう点で苦労することがある」「先輩たちはこうやって困難を乗り越えてきた」などの内容をお願いしたい。

★美和中学校からの要望

- ・中学校でやったアンケートの結果をもとに回答を考えて欲しい。(後日送付されます)
- ・中学生のうちにやっておくべきことへのアドバイスをもらえるとありがたい。
- ・可能であれば1クラスあたり9班編成でお願いしたい。(少人数の班)
- ・卒業生の活躍の場として美和中学校出身者が始動しても問題ない。

★大治中学校・基目寺南中学校からの要望

- ・他校と同様、卒業生以外でお願いしたい。
- ・その他についても、他の中学校と同様のことをお願いしたい。

【中学校の先生方からの要望をまとめよう】

【要望を踏まえてあなたが取るべき行動・行動とは?】

3 時間目

1 年生 総合的な探究の時間 中学校訪問③		
2024 年 11 月 7 日 (木)		
この「総合的な探究の時間」は、「 探究 」を行う時間です。探究とは、「 ①問いを生きて ②情報収集・分析し ③課題に協力しながら ④課題の解決に向かう姿勢を身につける 。」学習方法です。今回はこの①～③迄を重視して進めていきますよ。		
【本日及び今後の日程】		
No	実施予定日	時 間
		テーマ
4	11 月 7 日 (木)	6 限
5	11 月 14 日 (木)	6 限
6	11 月 21 日 (木)	6 限
7	12 月 5 日 (木)	6 限
8	12 月 12 日 (木)	5・6 限
9	12 月 13 日 (金)	5・6 限
中学生へのアドバイスを考えよう(場所:各クラス) 中学生へのアドバイスを発表しよう(3・5組は大治中の役割分担)(場所:各クラス) 中学生へのアドバイスを再確認しよう・役割分担しよう(発表練習)(場所:訪問中学校別) シミュレーションしよう(場所:訪問中学校別) 大治中学校訪問(3・5 組) 七宝・喜目寺・喜目寺南・奥中学校訪問(全クラス)		
【本日の内容】		
No	実施予定日	実 施 内 容
4	11 月 7 日 (木)	中学生へのアドバイスを考えよう (場所:各クラス) 各クラスでグループに分かれ(1・2・4組は指定なし、3・5組は大治中訪問時のグループ)、中学生へのアドバイスを考える。担任は要望とそれについてが随時確認する。
【今回の探究のテーマ】 ③関わりと協力しながら ④課題の解決に向かう姿勢を身につける 前回の内容を踏まえ、グループで話し合いながら中学生へのアドバイスを考えましよう。 【前回の「要望を踏まえて あなたが取るべき行動・言動とは。」をグループで共有しよう		
【自分が考えた中学生へのアドバイス】 箇条書き		

1年生 総合的な探究の時間 中学校訪問③ アドバイス(提出用)

2024年11月7日(木)

1年()組()番 氏名()

【本日のMission】

Mission グループで中学生へのアドバイスを考えよう

各自が考えたアドバイスを共有し、良いと思ったアドバイスを一覧にまとめなさい。

※想定される中学生からの質問とその回答も考えなさい。※基督寺中・美和中については指定あり。

【担当の先生からのアドバイス】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

担当:()

4時間目(これ以降は発表練習・シミュレーションのためワークシートなし)

2024 年 11 月 14 日 (木)

この「総合的な探究の時間」は、「**探究**」を行う時間です。探究とは、「**①問いを立て ②情報収集・分析 ③情報と協力しながら ④課題の解決に向かう姿勢を身に付ける**」学習方法です。今回はこの①～④を意識して活動していきましょう。

【本日及び今後の日程】

No.	実施予定日	時限	テーマ
5	11 月 14 日 (木)	6 限	中学生へのアドバイスを発表しよう (3・5 組は大治中の役割分担) (場所:各クラス)
6	11 月 21 日 (木)	6 限	中学生へのアドバイスを再確認しよう・役割分担しよう (発表練習) (場所:訪問中学校別)
7	12 月 5 日 (木)	6 限	シミュレーションしよう (場所:訪問中学校別)
8	12 月 12 日 (木)	5・6 限	大治中学校訪問 (3・5 組)
9	12 月 13 日 (金)	5・6 限	七宝・喜目寺・喜目寺南・美和中学校訪問 (全クラス)

【本日の内容】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
5	11 月 14 日 (木)	中学生へのアドバイスを発表しよう (3・5 組は大治中の役割分担) (場所:各クラス)	各グループで考えた中学生へのアドバイスを発表する。担任・副担任で、希望とのずれがないかの確認も含めてアドバイスを。3・5 組は大治中の役割分担も行う。

【今回の探究のテーマ】3 周画と協力しながら 4 課題の解決に向かう姿勢を身に付ける
※グループで話し合いながら中学生へのアドバイスを考えましょう。

【本日の Mission】

Mission] グループで中学生へのアドバイスを発表しよう
【各グループの発表をメモする・良いアドバイスがあればしっかり書き留める】

1年生 総合的な探究の時間 中学校訪問④ 持参シート(提出用)

2024年11月14日(木)

1年()組()番 氏名()

※このシートは、中学校訪問当日に各中学校へ持参し、参照するためのメモにもなります。

Mission 中学校訪問時に持参する自分用のメモを完成させなさい

【自己紹介文(完成版)】

【中学生へのアドバイス(完成版)】

※当日に自分が中学生へ伝えたい内容を一覧にする(グループやクラスの発表通りである必要はない)

こんにちは。美和高校の()です。

私からのアドバイスは

以上です。何か質問がありますか? →適宜質問に答える。

【授業の様子】

事前学習（グループ別自己紹介） ※訪問中学校ごとにホームルームクラスをまたいだグループを作成した



中学校訪問 当日の様子



【成果と課題】

中学生にキャリア教育における「情報収集」の機会を提供する場として今回の授業を設計した。高校生には「1時間の授業を自分たちの力で実施する場」とし、相手の要望や、自分が取るべき態度を考えさせた上で、司会・タイムキーパー等の役割を分担し、当日は授業を高校生が全てコントロールした。初めての機会に高校生側は直前まで緊張を口にする生徒が多かったが、中学生の元気さや前向きさも手伝い、グループに分かれてからは、年長者としての立場をわきまえつつも、教壇にいたときよりもリラックスして自分の考えを中学生に伝える様子が見られた。事後には「頑張りました！」という達成感を伴う感想を述べる生徒が大多数であり、人前で自分の考えを発信する

機会の少ない生徒たちにとって、探究学習という枠を超えた良い経験になった。ただし、今回は既定のテーマがある活動であり、「自分の課題」を意識できていない生徒が多かった。今後は既定のテーマに対し、生徒にどのように掘り下げた探究活動を実施させていくかを考えていきたい。

なお、中学校と高校のそれぞれの教員への事後アンケートには、以下の意見が挙げられた。

【アンケート結果】

高校教員

- 事前には自信がなさそうだった生徒が、グループワークではイキイキと活動していたのはすばらしいと思った。
- 「探究」という観点から考えると、「課題の解決」に向けて、訪問後の反省の時間があるとよい。また、時間があれば反省後に全クラス2回目の訪問に行ってもよいと思う。
- 生徒は頑張っていたが、中学校にとってプラスだったのかわからない。相手はどんな成果・狙いをもってやっているか事前にわかると、こちらの生徒とも意識を共有しやすい。
- 「探究」の活動として中学校へ訪問していることをきちんと理解できていなかったように感じる。「課題の設定」がぼやけてしまった。

中学校教員

- 高校生と楽しそうに話をしている様子や進路について話をしている様子を見ると、効果が期待できると思った。OB ではない高校生が来校してよかったと思う。
- 高校生がしっかりと準備してくれていたのも、スムーズに授業が進んだように感じます。
- 意欲的に話を聞いたり質問をしたりする様子が見られました。また、本校の卒業生ではなかったので程よく緊張感がある中で活動できて良かったと思います。
- スムーズに授業を進めてくれていました。中学生ともすぐに打ち解けて和やかな雰囲気の中授業を進めてくれていました。
- しっかりと準備していることが伝わりました。分かりやすかったです。
- 中学生の質問にていねいに答えてくれたり、上手に受け流してくれたり、「さすが高校生！」と感じた。
- タイムキーパーなどの役割がしっかりと機能せず、流れがつかめないまま後半が終わってしまったクラスもあった。
- 進路等の質問もあるので、高校2年生が交流に来てくれるといいかなと思った。
- 今回の取り組みは、探究活動としてはどうだったのかと思うところがあった。
- 「探究」ということがキーワードになっていましたが、「探究」についてはあまり考えることができなかった。高校の授業のイメージはついたと思います。

⑤防災学習 （連携機関：あま市社会福祉協議会・県民事務所）

【日程】

No.	実施予定日	テーマ	実施内容
1	1月9日(木)	防災について知る① ～学ぼう～	あま市役所危機管理課職員から、「防災とは何か」についての講義を受ける。
2	1月16日(木)	防災について知る② ～イメージしよう～	あま市社会福祉協議会の防災担当職員から、能登半島地震の災害支援へ出かけた際の体験を聞き、自分ができることについて考えるワークショップを実施する。
3	1月23日(木) (2時間)	防災について知る③ ～体験しよう～	海部県民事務所の県民防災安全課及び NPO 法人あま市防災ネットの職員の指導のもと、避難所運営ゲーム(HUG)を体験する。
4	1月30日(木)	防災について伝える① ～造りだそう～	地域住民からの講話をもとに、高校生ができる活動の一環として、クラスごとに子供向け防災カルタを作成する。
5	2月13日(木)	防災について伝える② ～造りだそう～	
6	2月27日(木)	防災について伝える③ ～造りだそう～	
7	3月6日(木)	防災について伝える④ ～プレゼンしよう～	各クラスで作成したカルタを発表し、最優秀作品を決定する。最優秀作品については、印刷し、社会福祉協議会へ贈呈する。

【目的】

いづどこで起きるかわからない災害に備え、地域の方々と連携をした防災の学習をすることで、災害の知識を修得し、今ある地域の課題に目を向け、積極的に周囲と関わり、課題を解決していこうとする姿勢を身につける。

【内容】

市役所や社会福祉協議会、県民事務所等、地域の防災を担う地域住民の講話を聞き、防災への知見を深める。また、避難所運営ゲーム(HUG)の実施を通し、避難所運営の一部を体感する。その上で、地域の子供たちの防災意識を高められるようなカルタを制作し、配布する。

【授業の様子】

第1時間目（あま市役所危機管理課職員の講話）



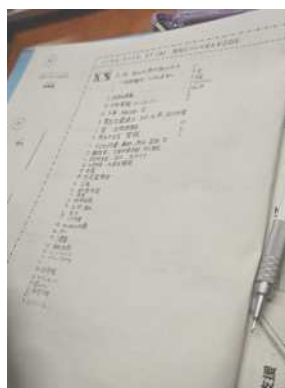
第2時間目（あま市社会福祉協議会の防災担当職員による講話）



第3時間目（避難所運営ゲーム（HUG）の様子）



第4時間目以降（カルタ作成の様子）



なお、防災学習については当報告書作成時点(2月中旬)において進行中であるため、完成版のカルタについては後日本校ホームページ等での公開を予定している。